

27 (自由提案部門)

事業名	新出雲市「ひろがれボランティアの輪」事業
実施主体	出雲市総合ボランティアセンター運営委員会
県担当課	環境生活総務課NPO活動推進室

事業の成果

事業の目的 [地域安全]

- 新出雲市において、民間、市、県、社会福祉協議会などと協働し災害時のボランティア活動がスムーズに行われるためのマニュアル作成とネットワークを構築することで、住民参加のまちづくりと地域防災を推進する。

事業の内容

- 座談会で意識醸成を図りながら、「出雲市ボランティアマニュアル作成委員会」を設け、県・出雲市関係課、社会福祉協議会などが一緒になってマニュアルを作成した。
- マニュアル(CD)は、出雲市関係機関、県内各市町村、希望団体などに配布した。
- 出雲市民に「災害時のボランティア活動について」を作成し、全戸配布した。



目的の達成状況 [十分達成できた]

- 出雲市災害ボランティアマニュアルにより、出雲市での災害時における組織体制と活動について基準となるものができた。
- 平成18年7月豪雨では、マニュアルができていたため、関係者が対応に集まってから30分以内に人員を配置し「出雲市災害ボランティアセンター」を立ち上げ、ボランティアの受入を開始することができた。
- こういう災害ボランティア活動では、内部スタッフ同士によるトラブルがつきものだが、マニュアルの検討段階で徹底的な議論を尽くしていたので、そういう問題が出なかった。
- マニュアルの特色の一つで、全国でも稀な自己完結(保険料自己負担)でのボランティアの受入だったが、理解は得られたと考えている。
- 災害ボランティア活動の運営自体の支援を行っている人も来たが、ここまでコンセプトのしっかりしている災害ボランティアセンターは初めてだと聞いた。
- マニュアルを動かすためには、旧町村の支所並びに旧出雲市のコミュニティセンター単位で勉強会を開催して、リーダー育成を行う必要を感じていたが、今回の災害ではマニュアルを読んで参加したスタッフがほとんどで、実際の活動を通じてネットワークや人材づくりも相当程度できたと考えている。

反省点・改善点

- 実際の災害での経験を受けてマニュアルに追加したい事項もできたので、改訂作業に取り組む予定である。
- 特に受付・配車に時間がかかった。受付についてはインターネットの活用を検討しているし、コミュニティセンター(公民館)ごとにサテライトを作って、そこに集合してもらおうと配車や情報把握のロスもなくなり、迅速な対応ができると考えている。

協働の効果

県との協働内容 [協働して実施した]

- マニュアル作成委員会に、県NPO活動推進室・消防防災課に参画を得た。
- 島根県における災害時の体制やボランティア対応の体制についての情報提供のほか、マニュアルの内容について様々な角度からのアドバイスを受けた。

県との協働効果 [十分効果があった]

- 災害自体、出雲市のみでの発生とは限らないのと、単独では対応できないため、県の組織や体制とも連携する必要がある。
- 県と協働することにより、協力体制を確認するとともに、幅広いネットワーク体制を組むことができた。

県への要望事項 [特になし]

反省点・改善点 [特になし]

市町村との協働 [協働して実施した]

- 出雲市防災計画に沿って出雲市災害ボランティアセンターの活動があるため、市から情報提供を受け、検討委員会では、市との連携を確認するとともに、アドバイスも受けた。
- 出雲市で災害の前に全戸配布された防災に関する総合パンフレットでは、このボランティア活動についても取り入れられたものになっている。

事業の継続

事業成果の活用 [活用されている]

- 実際の災害を経て、実効性のあるものだったことを確認できた。

事業の継続状況 [助成を受けずに継続実施している]

- 今年からの防災訓練では作成した出雲市災害ボランティアマニュアルに沿って訓練する予定である。

協働による発展 [協働により発展できる]

- 県とは今後も連携を強めるとともに、各市町村とのネットワークを構築していくことを希望する。
- 市とは広域化した出雲市内の各支所との連携とネットワークの構築を目指す。
- 旧出雲市については、コミュニティセンター(公民館)単位での観連携とネットワークの構築を目指す。

